

住まいル新聞

大月人物伝 若き日より政治家を志して 小林 多門

日本ステンレス工業株式会社

発行/日本ステンレス工業株式会社

〒409-0617 山梨県大月市猿橋町殿上630-1

電話=0554-22-2500

FAX=0554-22-5234

Vol.148 2012

1月号



新年明けましておめでとうございます。

住まいル新聞 編集責任者
日本ステンレス工業株式会社 代表取締役会長 石岡博実

第六卷「続・大月人物伝2」編集メンバー	
編集委員長	山口 善久
編集委員	天野 平八郎
	井上 豊
	仁科 義民
	平井 茂
	小俣 英昭
(敬称略)	早苗 文次郎
	井上 小林
	西室 倭一
	星野 泰照
	杉本 正文

※「心に舞う」シリーズは、
「世界平和太鼓」の両面に書かれている
「心」「舞」に由来するものです。

早いもので、タウン情報紙として毎月一回の掲載を重ねて早や十二年を数えました。小生が四十六歳の時です。当時を振り返りますと、社業も低迷が続き一進一退の日々で、金融機関やある取引業者さん等からも良く笑われました。「働き盛りなのに、社業をしつかりしてから道楽をしたら?...」と。しかし、やればやれるものです。もし、その方に云われた様に考えていたならば、この仕事(シリーズの発刊)は永遠に出来なかつたでしょう。

何かを残すには若いうちに、動けるうちに、体力があるうちに、と云い聞かせながらの十二年間の闘いでした。

特に「大月人物伝」に関しては、七十・八十歳を超えている各先生方が記憶を呼び起こし、「ご高齢の体に鞭を打ちながら百名に及ぶ人物の編集をして来られました。まさしく「大月市に何かの呼びかけに、呼応して頂きました各先生方ははじめ、関係各位の御尽力の賜物と心より感謝申し上げる次第です。

「住まいル新聞」はこれからも、さらに研鑽を重ねて発行して参ります。今後とも引き続き、ご愛読いただきますようお願い申上げます。

「人生どこまでできるか挑戦であり、何を残すか実験である」

R・ポーリング



「住まいル新聞」をいつもご愛読頂き心より感謝申し上げます。お陰さまをもちまして、ここに第六巻「続・大月人物伝」を発刊する事が出来ました。

十二年を数えました。小生が四十六歳の時です。当時を振り返りますと、社業も低迷が続き一進一退の日々で、金融機関やある取引業者さん等からも良く笑われました。「働き盛りなのに、社業をしつかりしてから道楽をしたら?...」と。しかし、やればやれるものです。もし、その方に云われた様に考えていたならば、この仕事(シリーズの発刊)は永遠に出来なかつたでしょう。

何かを残すには若いうちに、動けるうちに、体力があるうちに、と云い聞かせながらの十二年間の闘いでした。

特に「大月人物伝」に関しては、七十・八十歳を超えている各先生方が記憶を呼び起こし、「ご高齢の体に鞭を打ちながら百名に及ぶ人物の編集をして来られました。まさしく「大月市に何かの呼びかけに、呼応して頂きました各先生方ははじめ、関係各位の御尽力の賜物と心より感謝申し上げる次第です。

「住まいル新聞」はこれからも、さらに研鑽を重ねて発行して参ります。今後とも引き続き、ご愛読いただきますようお願い申上げます。

大月人物伝 若き日より政治家を志して 小林 多門

小林多門は、昭和十八年四月二十四日、父小林直賢、母ウメネの四男五女の八番目として、大月市初狩町中初狩三五一一番地(屋号鍵屋)の農家に生まれた。多門は、多感な少年時代、教師から受けた言葉に啓発され、人生のすべてを言葉通りに実践し、その努力により、大きく羽ばたいた。

彼は「将来の夢」と題した小学校の卒業文集に「一生懸命、勉強して代議士になること」と書いた。彼が中学に入学した年に、田中正雄校長、石井深教頭先生が転勤してきた。兩人は文武両道を重んじ、田中先生は野球・剣道、石井先生は柔道と、名声が高い指導者であった。

彼は野球好きの校長先生の在任中に野球部を作ったほしいと二年生の時から、野球部結成の準備を始めた。丁度その時、都留高校で矢頭投手が大活躍し、山静大会で優勝、その矢頭投手が、立教大学でキャプテンとなり、長嶋、本屋敷選手等を連れて、母校都留高校で練習試合をされ、当時新聞が報道、山梨県で野球チームが起こった。

多門は2年生の二月、初狩中学の生徒会長選挙に、「一、野球部を作ります。一、クラブ活動の活性化、柔道、バスケットボールの対外

試合・文化祭の開催」の公約をかかげ立候補し、立会演説会で公表、彼が生徒会長に当選した。当選後校長室に行き、野球部結成のお願いをした。校長先生が野球部結成に努力してくれた。

しかし、都留高校に入学して間もなく、胃腸に悩まされ、病を治すために、夏、冬休みは、父直賢に連れられ、大和村の嵯峨塙温泉、身延の西山温泉行きで、彼の高校時代は、正に「健康に勝る宝なし」の言葉を実感した。

高校時代の想い出は、都留高校の生徒会長は、齊藤隆、小林高紀、富田重利の先輩、級友の杉本邦雄、一级下の渡邊勝と五代続いて初狩中学の出身者だった。彼も健康が勝れていたら生徒会長に立候補していただろう。

三代続いた都留高校の生徒会長を、他の中学出身者に取られたくないと、十日間の選挙期間中、昼休みの時間、各クラスをまわり、応援演説をして歩き、杉本・渡邊の両君を当選させた。

多門は明治大学に進み、入学と同時に三木武夫元総理や、多くの政治家を大先輩に持つ雄弁部に入った。一、二年の時は、和泉校舎の隣の墓地で三年生の先輩から、发声練習、早口言葉の指導を受け、即席弁論で徹底的に仕込まれた。

一年生の秋十月、明治、早稲田、中央の三大学交流新人雄弁大会に、彼は明治大学の新人十五名の中から選ばれて出場した。多門が政治の世界に入るきっかけは、昭和三十八年十一月の衆議院選挙に、八王子市の小山省二候補が立候補、明治大学雄弁部に応援弁士の依頼があり、彼が応援に行き、駅頭や移動事務所の開所式で司会をし、各会議員の応援弁士の紹介をしたことである。小山候補は第四位で当選。その後、小山代議士に認められ、明治大学を卒業と同時に小山代議士の国会担当秘書となつた。

小山代議士は、中学校を卒業後デッヂ奉公に入り、朝五時起床、夕方五時まで働き、六時に都立八王子色染学校の夜間に通い、四年間一日も休まず首席で卒業されたといふ、ご自分の小・青年時代の話をされ「小林、早く人の上に立とうと思うなら人の遊んでいる時、働き、寝ている時、勉強しなさい。『努力は天才に勝る』」と彼を叱咤激励してくれた。「受けた恩は心に刻み、与えた恩は砂に書け」「感謝する心に幸いは生まれる」が

秘書時代に学んだ言葉である。秘書という仕事はつらく、正直何回もやめようと思った。

昭和四十九年五月のある朝、「小林、来年四月の八王子市議会議員選挙に出なさい」と言われたが、突然のことで驚きと不安半分であった。当選には最低二千五百票は必要で地盤・看板・カバン(お金)もなくて当選出来るだらうか?立候補予定者は、農協の組合長、会社の社長、建設会社の長男等。選挙資金は三百万掛かる。彼はそんな大金は用意出来ず三日三晩考え、断つた。小山代議士の奥さんが、私も応援します。選挙資金も必要です。私が結婚以来こつこつと貯めておいたお金ですと百万円ポンとだしててくれた。家に帰り女房に報告したその足で、親がそこまでしてくれるなり、父や長兄に相談したところ、小山代議士の奥さんがそこまでしてくれるなり、父、兄弟四人でも用意しようとなり、翌日代議士と奥さんに出馬させていただきますとひざまずいた。こうして昭和四十九年九月一日より八王子市議会議員選挙への挑戦がはじまった。

毎日、六時半から八王子市議会議員選挙への挑戦がはじまつた。



子、高尾、西八王子駅々頭に立ち、小林多門のタスキをかけ、経歴書、市の現状、私の決意表明の状況に配った。最初は一人位しか受け取つてくれなかつたが、二、三ヵ月たち、十人に一人位は受け取つてくれるようになり「努力は次第に実を結ぶ」の言葉を実感した。

その間、八王子市長に山梨県上野原町出身の波多野重雄氏が立候補、彼は選対の青年部長として踏み出した。

社会党の植松候補、次〇、八二三票、第三位社会党の植松候補、次点 自民党 黒須隆一候補であった。昭和六十年七月七日、四十二歳の都議会議員が誕生した。

彼は都議会一期目は副幹事長、二期目には財務主税委員長に就任した。三期目も無事当選し、警察消防委員会に所属し筆頭理事に就任した。

平成七年、多門は都議会三期目。任期半ばであつたが、次期衆議院議員選挙に出馬を決意した。八王子選挙区の自民党公認争いは熾烈で、都連の裁定に従うことになつた。時の自民党東京都連の会長深谷隆司代議士は、彼を衆議院選に出馬するよう勧めてくれたので、東京都連の選対会議ですべての公認が決定。公認の喜びもつかの間、自民党八王子支部が分裂、小選挙区制になつての衆議院選挙で、選挙区は八王子市だけの単独選挙区となり、彼は市議会、都議会各三回の選挙で、名前は売れており、強力な後援会・山梨県人会・明大・都留高OB会・山梨投票日三日前、京王八王子駅々頭の橋本総裁遊説に、三千人超が市内各地から駆けつけてくれた。

投票は十月二十日日曜日、午後八時から開票、十時にはNHKのテレビで当確が打たれ、衆議院議員小林多門が誕生、齢五十二歳でした。衆議院議員に当選後の活動は、国会担当の秘書をやつていたので、要領はわかつてていた。議員バッジをつけ衆議院本会議場へ入った時、「ああー。本当に代議士になつたのだ」と、小学生の時に書いた卒業文集を思い出し、「努力は天才に勝る」「努力した者が報われる」の言葉をかみしめた。

平成十二年の総選挙は、自民党の敗北、多門も議席を失う。その後、病をえて政治家としての活動を中止した。五十八歳の秋であった。

過ぎていた。

四月二十七日日曜日には投票、翌日午前八時半から開票、十時には当確が打たれた。彼の予想をはるかに超え三八〇六票、五十六名中第三位で当選、政治家としての第一歩を踏み出した。

昭和六十年六月、いよいよ都議選のその時がきた。相手は公明党の現職、社会党の新人、同期生の黒須隆一氏(現八王子市長)。八王子市民からは、黒須隆一氏有利と見られていた。その結果は、第一位 公明党の白井候補、

第二位 小林多門 四〇、八二三票、第三位社会党の植松候補、次点 自民党 黒須隆一候補であった。昭和六十年七月七日、四十二歳の都議会議員が誕生した。

彼は都議会一期目は副幹事長、二期目には財務主税委員長に就任した。三期目も無事当選し、警

察消防委員会に所属し筆頭理事に就任した。

平成七年、多門は都議会三期目。任期半ばであつたが、次期衆議院議員選挙に出馬を決意した。

八王子選挙区の自民党公認争いは熾烈で、都連の裁定に従うことになつた。時の自民党東京都連の会長深谷隆司代議士は、彼を衆議院選に出馬するよう勧めてくれたので、東京都連の選対会議ですべての公認が決定。公認の喜びもつかの間、自民党八王子支部が分裂、小選挙区制になつての衆議院選挙で、選挙区は八

王子市だけの単独選挙区となり、彼は市議会、都議会各三回の選挙で、名前は売れており、強力な後援会・山梨県人会・明大・都留高OB会・山梨投票日三日前、京王八王子駅々頭の橋本総裁遊説に、三千人超が市内各地から駆けつけてくれた。

投票は十月二十日日曜日、午後八時から開票、十時にはNHKのテレビで当確が打たれ、衆議院議員小林多門が誕生、齢五十二歳でした。衆議院議員に当選後の活動は、国会担当の秘書をやつていたので、要領はわかつていた。議員バッジをつけ衆議院本会議場へ入った時、「ああー。本当に代議士になつたのだ」と、小学生の時に書いた卒業文集を思い出し、「努力は天才に勝る」「努力した者が報われる」の言葉をかみしめた。

平成十二年の総選挙は、自民党の敗北、多門も議席を失う。その後、病をえて政治家としての活動を中止した。五十八歳の秋であった。

王子市だけの単独選挙区となり、彼は市議会、都議会各三回の選挙で、名前は売れており、強力な後援会・山梨県人会・明大・都留高OB会・山梨投票日三日前、京王八王子駅々頭の橋本総裁遊説に、三千人超が市内各地から駆けつけてくれた。

投票は十月二十日日曜日、午後八時から開票、十時にはNHKのテレビで当確が打たれ、衆議院議員小林多門が誕生、齢五十二歳でした。衆議院議員に当選後の活動は、国会担当の秘書をやつていたので、要領はわかつていた。議員バッジをつけ衆議院本会議場へ入った時、「ああー。本当に代議士になつたのだ」と、小学生の時に書いた卒業文集を思い出し、「努力は天才に勝る」「努力した者が報われる」の言葉をかみしめた。

平成十二年の総選挙は